



「国際ミッション IN ハワイ」

保険先進国、米国の実情を学ぶ（上）

日本青年会議所保険部会（松本一成部会長）では、9月中旬に5日間にわたり国際ミッションとしてハワイ・ホノルルで研修会を開催した。参加メンバーは11名で、その研修内容が寄稿された。ここに2回にわたり掲載する。

5日間にわたり研修 業界および自社の将来描き視察

2011年9月13日～17日まで、日本青年会議所保険部会は国際ミッションとしてハワイのボノルルにおいて研修会を開催しました。今回のミッションの目的は、2010年度スローガンである「原点回帰と環境適応」を実践していく上での知識とノウハウを保険先進国（アメリカ）で学び、日本に持ち帰ることでした。

具体的には、保険法の施行、ネット販売の拡大、3メガ体制への移行等、激変する保険業界において保険代理店はどうのうにして存在意義を維持

14日（正午）
一堂に集い結団式

し、組織として存続・発展していくべきなのか？新しい時代における保険代理店のあるべき姿を保険先進国であるハワイの地でそのヒントをつかみ、参加者が業界の将来像を具体的にイメージしながら自社の将来像を明確に描き、日本に持ち帰ることでした。

これから保険会社と代理店との関係性や保険代理店としての役割、手数料率10%時代における代理店経営等について、多くの学びがありました。が、以下に研修内容やその学び等を報告します。

9月14日の午後にあいおい損害保険の子会社（現・

研修1 DTRIC社の視察

9月14日の午後にあいおい損害保険の子会社（現・

代理店は3種類

労災保険を民間開放

ネット型自動車保険が伸展

率で扱わなければならぬため、利益が出にくい構造になつてゐるところでした。

逆に日本と似ていると感じた点は、通信販売系のネット型自動車保険が伸びてきているという点。とりわけAIGハワイのダイレクト型については、更に保険料を平均12%ダウンさせるなどの発表もあり、DTRICとしても対応を考えなければならぬとのこと。DTRICを含めたハワイの保険会社も日本と同じように代理店制度を敷いていますが、代理店は大きく分けて3種類に分類でき、個人マーケットででき、個人マーケットで自動車・火災等をメインで扱う代理店、法人マー

ケットに特化した代理

店、そして生命保険と労

災保険をメインで取り扱う代理店、法人マー

ケットで充満したオフィスで

スセンターにも担当者がいます。規模としては大きな代理店程度かもしれないが、勤勉な日系人は非常に喜ばしい現地人

はボワイトカラーワーの職種からの評価でした。

した会社作りが出来てい

るよう感じられました。

ちなみに、代理店手数料

は自動車の新規が13%

更改が10%、法人契約は

一律12%であり、火災保

険については新規が17・

5%、更改が12%とのこ

とおり、やはり日本に

比べると非常に低い水準

であることがわかります。

その後会議室で現地法人

のCOOであるアーネス

トヒデオフケダ氏

といつたところ。手数料

で約1ミリオンというこ

とでした。

研修16日の午前中に

MATSUKAWA INSURANCE AGENCYの視察

3・5名、事務2・5名

といったところ。手数料

で約1ミリオンというこ

とでした。

研修16日の午前中に